

少年時代に良書を読む習慣をつけましょう

——スマホでは教養はつきません

公益財団法人  
新教育者連盟理事長 代田健蔵

近頃は電車の中でも、歩きながらも、時には自転車に乗りながらもスマホを操作している人が多く、時には危険を感じることもあります。

電車のシートに座っている人も、ホームに並んで電車を待っている人も、周囲には無頓着でほとんど例外なくスマホの画面に釘付けです。前に障害物が立っていないよう、と老人がいろいろと全く無頓着な有様です。

お茶の水女子大学名誉教授で「国家と教養」等の著書がある数学者の藤原正彦先生は「スマホより読書」(PHP文庫)の中で「インターネットで情報は得られても知識や教養は絶対には育たない。(中略)歴史を知らなければ、先述したポーランドのように国そのものが滅びてしまうことがある。我が国が西欧列強の植民地にならなかつたのは、幕末から明治にかけて来日した外国人が、町人たちが本屋で立ち読みしてのを見て震撼したからです。(中略)江戸末期の識字率が9割を上回る、というのは欧州人の想像の限界を超えている。ロシアなどは、1900年になってもまだ識字率は5%程です。

彼らは、自分たちよりもはるかに知識と教養を持つ日本を植民地にすることを早々と諦めます。皆が本を読むということはそれはどの防衛力になる。つまり読書とは国防でもあるのです」と。

当連盟からは偉人伝が9冊刊行されています。いずれも大人が読んで、子供が読んでも感動するものばかりです。

感受性豊かな少年時代にこそ偉人伝をお薦めください。かく申す小生も「発明王エジソン」を読んだのが小学4年生の時、以来古今の偉人伝を歩きながら、時には自転車に乗りながら夢中で読んだものです。常に良書を読む習慣をつけたいものです。良書が一生の宝になることは間違いないと思います。



谷口雅春  
後藤久子  
越智美香子  
上島憲司

自分に誇りをもち 親に誇りをもち 祖国日本に誇りをもち 青少年を育成する

責任編集  
公益財団法人 新教育者連盟

# 生命の教育

「生命の教育哲学」創始者 谷口雅春先生御揮毫

令和 6 年 3 月号 もくじ

巻頭のこぼれ 新教育者連盟理事長 代田健蔵  
少年時代に良書を読む習慣をつけましょう

## 特集 子供の心に響く良い本との出会いを

- |    |  |  |
|----|--|--|
| 5  | 本を読むことで子供の人生も豊かになります   |  |
| 8  | 偉人伝——先人からの「命」のバトン  |  |
| 10 | 良書は心の栄養となり、夢を持つ子供になる   |  |
| 11 | 読書の楽しみ——伝記を読んで   |  |
|    |  |  |
| 14 | 《講演録》創立者谷口雅春先生の生命の教育への願い(前編)<br>日本航空学園常務理事 浅川正人  |  |
| 18 | 《シリーズ》生命の教育とは(最終回)<br>(公財)新教育者連盟理事長 代田健蔵   |  |
|    |  |  |
| 13 | 子育てワンポイント(81) 地震に思う  | 出口正博                                   |
| 20 | 子育てQ&A 家庭学習の習慣をつけさせたい<br>中学生になったら仲間はずれにされる息子<br>子供の乱暴な言葉が気になる<br>息子の関心をマンガに向けさせたい<br>小学生の娘を体力のある子に育てたい | 大原和子<br>小林義典<br>杉山紀代子<br>鎌倉弘行<br>執行ひろみ |
| 25 | 子育ては母育で(136) いろいろな症状の受けとめ方①  | 田下昌明                                   |
| 26 | 世界がおどろく日本の魅力(37) 神代に始まる和歌の伝統   | 井上雅夫                                   |
| 27 | 日本国憲法の問題点(101) 能登半島地震の教訓<br>日本のしきたり(75) 「啓蟄」   | 勝岡寛次<br>辻川牧子                           |
| 28 | 親で読むものがたり(138) 子供たちの支えになりたい③   | 千葉ひろ子                                  |
| 30 | 広がる仲間の輪——喜びの声—— 大阪子ども寺子屋・寺子屋くれ   |  |
| 31 | 新教連活動あらかると<br>◇ 紙芝居『古事記』第7幕紹介、能登半島地震の救援募金報告、読者の声、<br>「生命の教育」献資のお願いのほか<br>◇ 3月の支部行事                     |  |
| 34 | 事務局短信・編集後記・次号案内  |  |

### 生命の教育 七つの心得

- 一、子供に宿る善性を信じ、これを引き出し伸ばし、育てます。
- 二、どの子の個性も尊重し、この世に生まれた使命を生かします。
- 三、よい習慣をしつづけて、正しいしつけといたします。
- 四、問題の子供は心の病氣、実は優柔児の仮の姿で、観方を一転します。
- 五、親が変われば子供が変わる。何よりもまず、明るい家庭をつくります。
- 六、いつもニコニコ、やさしいコトバ、認めてほめて、たたえます。
- 七、花咲くことを疑わず、信じて気ながに育てます。

